

# Niigata Award News

(食の新潟国際賞財団通信)

## Topics

- ・第一回食の新潟国際賞  
推薦件数のご報告
- ・特集「食育のこれから」
- ・食の新潟応援団(賛助会)  
団員名簿

## 第一回食の新潟国際賞 推薦件数のご報告

2009年12月31日をもって、第一回食の新潟国際賞の募集を締め切りました。たくさんのご推薦ありがとうございました。選考結果の発表は、2010年6月頃の予定です。表彰式は10月29日に新潟市内で開催予定です。

	本賞	佐野賞	希望賞	合計
日本	38	9	16	63
アメリカ	6			6
エジプト	2		1	3
インド	2	2		4
タンザニア	1			1
インドネシア	1			1
パキスタン	3			3
スリランカ	2	1	1	4
韓国	1			1
タイ	1			1
中国	2	1		3
フィリピン		1		1
ウズベキスタン			1	1
ブラジル	0	1		1
シエラレオネ	1	1		2
合計	60	16	19	95

国内外推薦比率	本賞	佐野賞	希望賞	合計
国内 推薦数	38	9	16	63
海外 推薦数	22	7	3	32
国内 推薦比率	63%	56%	84%	66%
海外 推薦比率	37%	44%	16%	34%

# 食の新潟国際賞 選考委員会

(敬称略)

役 職	氏 名	所 属	備 考
選考委員長	唐木 英明	日本学術会議副会長	東京大学名誉教授
選考委員	木村 修一	昭和女子大学大学院特任教授	東北大学名誉教授
"	生源寺 眞一	東京大学農学部長	日本学術会議会員
"	猪口 孝	新潟県立大学学長	日本学術会議会員
"	平山 征夫	新潟国際情報大学学長	前新潟県知事
"	山口 寛治	奥野総合法律事務所特別顧問	三菱商事元顧問
"	柴田 明夫	丸紅経済研究所所長	
"	山野井 昭雄	味の素(株)顧問	
"	小出 五郎	日本科学技術ジャーナリスト会議前会長	元NHK解説委員
"	今野 正義	日本食糧新聞社 代表取締役社長	
"	松原 博	(株)日本農業新聞 代表取締役社長	

# 特集:「食育のこれから」

「百の魚」を与えるより、「釣り針と釣り糸の使い方」これが食育

評議員 服部 幸應  
((学)服部学園理事長)



食育がだいぶ知られてきたようです。しかし、食育というと一般的には「親子料理教室」か「農業体験」ではないのかと答えが返ってきました。

平成17年7月15日に施行された「食育基本法」は、現在内閣府の「食育推進基本計画」(平成18年～平成22年の5ヶ年計画)の目標数値の75%程達成できてきたのですが、食育とは何かはまだ一般的に知られていないような気がするのです。そこで、食を通じた人間教育すなわち食育の本質に触れてみたいと思います。それには、親が大きな役目を果たすこととなります。動物界をみ

と、親の役目は、一言でいうと、子どもを独りで生きていけるようにすることなのです。それは、地球上のすべての動物に当てはまります。

例えばライオンは、子どもが幼いうちは獲ってきたシマウマなどの肉を与えていますが、ある程度成長すると、母親は子どもを猟に連れて行きます。そこで狩りのテクニックを教え、自分で餌を確保できるようになると、親は子どもを一人前として扱い、親のテリトリーから追い出してしまいます。このように親が子どもを独り立ちできるように育てあげるのは、当然の本能であり動物界では当たり前のことです。

ところが、今の家庭の中では、子どもを独り立ちさせるための躰ができていない親が多いように思います。ライオンに例えれば、餌は与えられても、獲り方をきちんと教えていないようなもの。これでは独り立ちできない若者が増えてくるのも当然で、自分一人では生きてゆけないのです。ニートやパラサイトシングルが増加も、これと関係しているのではないのでしょうか。食卓で家族から教えられる一般常識こそが、その後の人生を決定づける力になるはずです。食卓での躰は8歳を過ぎてからでは遅いのです。

日本の教育の三本柱「知育」・「道徳」・「体育」の基本として「食育」が不可欠な理由は、幼児の頃までに全てが確立するからです。

社会でいう大海に、いずれ小舟を漕ぎ出す子どもに与えるべきは、「100匹の魚を与えるよりも釣り針と釣り糸の使い方」を教える事なのです。

それが家庭での親の役目であり、一般常識を弁えた大人になるための教育。すなわち「食育」なのです。

## 「食育のいま」



### 評議員 坂本 元子 (和洋女子大学 学長)

平成17年に制定された食育基本法の施行からはや4年を経過しました。国が目指している推進基本計画の作成、実施状況も順調に進んでいます。推進計画・実施は各都道府県では100%の実施ですが、市町村レベルでは目標値の半分の50%に止まっています。

食育推進計画の内容は幅広く、単に人の健康を対象とした食品摂取や疾病の予防だけにとどまらず、農村と都市の交流、地産地消、食の安全と信頼、食文化の継承、食物の廃棄など幅広い範囲で、啓発活動がすすめられています。

最初の頃は日常の食生活に関する悩みや不安、家族の健康と栄養のバランスなどに興味集中していましたが、現在では、食品の安全性への興味が高く、地域の産物の摂取や旬の食材、郷土料理の学習、食べ残しやごみを減らすことに興味を持っている人達が80%にも達するほど食への理解が高まっています。最近の食育の傾向は、学校を始めとして教育ファームを活用した食農教育へ向かっています。特に学習指導要領の中に食育が入れられて以来、生徒の農業体験やそれによって収穫された食糧の調理・加工の学習、学校給食への活用など、農業への親しみや、好き嫌いの矯正、生物の生命をもらって人が生存するといった道徳教育への授業展開等も行われています。

現在最も普及率の高い食育は、「弁当の日」です。ある小学校の校長先生の発案で5年生に一年に一日だけ、自分で弁当を作るという行事をはじめられました。その効果は多くの学校へ普及し、いまや全国レベルの小・中・高校、大学でも実施されており、会社でも「ぼく弁」を作る人が出ているようです。弁当を作るという行動で、食を通して学ぶ内容が深くまた広く子ども達に多くのことを学ばせるようです。





## 事務局レポ

# 一緒に作る、一緒に食べる—親子で共通体験を！ 「コミュニティスクールにいがた」の取り組み

良い食材で作ったおいしい食事を食べる—それが親と子が一緒に作った料理であれば、そのおいしさは倍増するでしょう。そんな体験へのきっかけ作りとして開催されている「コミュニティスクールにいがた」を訪ねました。

「コミュニティスクールにいがた」は新潟市のNPO法人「メイドイン越後」が主催しています。同法人は、親子が一緒に何かをする共通体験が子育てには重要であり、それには共に料理を作るという経験が一番ではないかという考えから、「コミュニティスクールにいがた」を開催しました。

なぜ、料理なのでしょう。主催者の細田氏は、「食べることは生きること。生きる楽しさをひとつでも提供したい。生きる楽しさを感じる経験は、多いほうがいい」と考えておられます。



交替でメレンゲを泡立てます

スクールで使用されている食材は、できるだけ地場のもの、身近なものが選ばれています。また、調理の合間に野菜ソムリエによる、その日使用した野菜の詳しいレクチャーもあり、親も子も専門家の説明に熱心に聞き入っていました。

ただ「食べる」のではなく、それにどのような栄養があるのか教えることは、子どもが食材への興味・関心を持つきっかけになり、そこから食卓での会話も広がるかもしれません。

リピーターも多く、メニューによってはキャンセル待ちになる回も。今回のメニューは「米粉のシフォンケーキ」、使われていた野菜は「かぼちゃ」でした。完成したケーキをおいしそうに食べる親子の姿がとても印象的でした。お子さんがいらっしゃる方は、是非一度参加してみたいはいかがでしょうか。



ケーキに使ったかぼちゃには...

## 食の新潟応援団(賛助会) 名簿 (平成22年2月1日現在・順不同)

### 特別会員

亀田製菓(株)	(株)ブルボン
亀田郷土地改良区	東京電力(株)
第四銀行	学校法人 新潟総合学園
(株)新宣	新潟県農業協同組合中央会
新潟市農業協同組合	新潟みらい農業協同組合
新津さつき農業協同組合	一正蒲鉾(株)
三井物産(株)新潟支店	佐藤食品工業(株)
(株)エイケイ	新潟日報社
三菱商事(株)新潟支店	ホテル朱鷺メッセ(株)

### 正会員(法人)

(株)第一印刷所	新潟県信用組合
(株)タカヨシ	(株)本間組
石本酒造(株)	(株)ミカサ
(株)ヤマジュウ風間	神山物産(株)
(株)山忠	シヨクザイ新潟(株)
丸七商事(株)	大東産業(株)
藤屋段ボール(株)	伊藤忠商事(株)新潟支店
新潟工科大学産学交流会	(株)タケショー
日本たばこ産業(株)新潟支店	(株)新潟博報堂
(株)新潟放送	新潟陸運(株)
(医)愛仁会 亀田第一病院	新潟食品運輸(株)
山崎醸造(株)	月島食品工業(株)
ハセガワ化成工業(株)	

### 正会員(個人)

敬称略

井田 増夫	山口 眞樹
藤島 安之	今泉 昇

## 食の新潟応援団(賛助会)募集中！

食を通じて飢餓や貧困などに苦しむ世界の現状に目を向けると、日本にいる私たちにも食の危機が及びつつあり、世界の人々の命が一つにつながっていることがわかります。食と私たちの命を守る本財団の事業に賛同し応援してくださる皆様を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

ホームページアドレス:

<http://www.niigata-award.jp/jp/join/index.html>

### 編集後記

Niigata Award News第2号いかがでしたでしょうか。今号は「食育」を特集しました。今回事務局レポでお邪魔した「コミュニティスクールにいがた」は月1回クロスパルにいがたで開催されています。一生懸命ケーキを作る子どもたちの姿はとても輝いていました。参加をきっかけに料理をすること、食べることにより関心を持ってくれたらと感じる取材でした。



Niigata Award

### Niigata Award News (季刊・年4回発行)

発行:一般財団法人

食の新潟国際賞財団事務局

〒951-8131

新潟市中央区白山浦1丁目425-9

新潟市白山浦庁舎内

<http://www.niigata-award.jp>

info@niigata-award.jp